

帆船日本丸&横浜みなと博物館

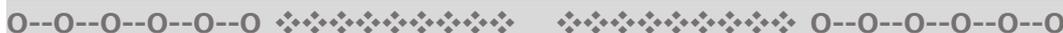
* 横浜港のシンボリック的存在 *①

横浜港の観光スポットといえば、山下公園・赤レンガ倉庫・マリニタワー・氷川丸など、横浜港の歴史を語る上で重要な遺産的存在が多い。その中でも桜木町駅の目前にある帆船日本丸と横浜みなと博物館は、横浜港のシンボリック的存在で、横浜港の開港からの発展を学ぶことができる施設でもある

帆船日本丸は1930年、文部省航海練習所の練習帆船として建造され、1984年に引退するまで、年間183万kmを航海し、1万1500人の船員の卵を育て海洋国家日本の人材育成を支えた、わが国の重要文化財。

横浜にやってきたのは1985年、ボランティアによる船内清掃や整備作業などにより、今日まで美しい姿を保ち続け多くの人々に親しまれている。

また「市民のための博物館」を使命として、展示事業、教育普及事業、ライブラリー事業などの博物館活動を展開してきた「横浜みなと博物館」は、1989年3月に横浜開港130周年を記念して「横浜マリタイムミュージアム」としてオープンしたが、2009年4月に名称を「横浜みなと博物館」とし「歴史と暮らしのなかの横浜港」をテーマに親しまれ、今年6月にリニューアルした。



— ごあいさつ —

公益財団法人 帆船日本丸記念財団理事長
兼 横浜みなと博物館長 青木治

横浜みなと博物館は開館から30年以上経過し、展示室の耐震化や展示施設の老朽化等の対応が必要になったことから、昨年6月から休館し、横浜市がリニューアル工事を行ってきましたが、6月9日にオープンしました。

博物館の展示テーマは引き続き「歴史と暮らしのなかの横浜港」とし「横浜港の歴史ゾーン」では、約160年の横浜港の歴史を絵図、写真、実物資料のほか、ペリー艦隊のジオラマ模型、展示室各所に配置した大型船舶模型等で紹介しています。「横浜港の再発見ゾーン」では帆船日本丸コーナーや操船シミュレーターを充実させたほか、新たにバーチャルリアリティ（VR）やプロジェクションマッピングなどの映像機器を取り入れ、これまで以上に楽しみながら、横浜港について知り、考え、学ぶことのできる施設としました。特にVRシアターでは帆船日本丸の航跡や総帆展帆の様子をドローンで撮影した迫力満点の映像等が映し出され、船や港の活動をこれまでとは一味違う深い没入感のもとで体感できます。

また、博物館に併設している柳原良平アートミュージアムも全面的にリニューアルを行いました。柳原作品は油彩画、水彩画、リトグラフ（版画の一種）、切絵、イラストレーション、絵本、漫画、アニメーションなど多岐にわたります。約150点の作品を通じて柳原の創作活動の幅広さと魅力を大いに楽しんでいただきたいと思います。

当館の様々な展示資料を通じて、一人でも多く横浜港、船そして海のファンになっていただけるようスタッフ一同努めてまいりますので、多くの皆さまのご来場を心からお待ちしております。

「海員だより」